この度は「気液界面模擬環境における炭素鋼の腐食メカニズムに関する研究」という業績名で水化学部会賞 奨励賞に選出して頂き、誠にありがとうございます。本研究は、福島第一原子力発電所の原子炉格納容器内部の気液界面を模擬した環境における炭素鋼の腐食について研究した成果であり、本研究で得た知見は原子炉格納容器の健全性の維持に貢献できると考えております。

2022 年現在東日本大震災から 10 年以上が経過しておりますが、言い換えると福島第一原子力発電所の原子炉格納容器に海水が注入されてから 10 年以上が経過したことを意味します。今後予定されている燃料デブリ取り出し作業時にはこれまで以上の酸素が格納容器内に導入されて厳しい腐食環境に推移していくため、福島第一原子力発電所における構造材料の腐食はこれからが本番です。今後も福島第一原子力発電所の健全性の維持に腐食の側面から貢献できるよう、腐食研究に今後一層邁進してまいります。

日本原子力研究開発機構　　大谷　恭平